

第 1 小委員会のまとめ

第 1 回：令和 8 年 3 月 1 2 日(木)

第 2 回：令和 8 年 4 月 2 0 日(月)

【文化・芸術】

2040 年の望ましい姿	望ましい姿を達成するための取組	基本目標に盛り込むべきキーワード
- 誰もが文化芸術に触れ関わる ことができるまち（無関心層を含めて どう広げていくか、障がいの有 無、年齢、経済状況にかかわらず 関われる） - 日常の中で文化芸術に触れ関わる ことができるまち	駅前・公園・商店街（区民の生活導線）に文化芸術を組み込んでいく。	- 街の価値そのものの力を底上げ （他自治体との差別化） - 社会課題への横断的効果（福祉 や教育だけでは解決できない） - 地域のアイデンティティの形成 - 次世代への文化・芸術の継承 - 地域文化の発掘・継承
- 次世代に文化・芸術をつないでい けるまち - 日本人の伝統（礼儀正しさ）の継 承	- 子どもたちが伝統・文化に関わるき っかけをつくる取組（習い事の時間 が合わない、経済的な制約があるこ とを踏まえた対応が必要）。 - 子ども会・青年会の活動、学校教育 の場での実践。	- 地域文化および芸術活動を通じ たコミュニティ形成 - 地域文化および芸術活動を通じ た地域活性化
荒川区の伝統的なお祭りの継承・ 発展	- 地域住民と一緒にしてお祭りを盛 り上げる。 - 地域の伝統的な祭りやそれを支え る神社、祭囃子の継承。 「天王祭」の魅力について通年で デジタルにより情報を発信する。（観 光活性化もつながる）。 - 中央区の取り組みを参考に、神輿 蔵を見える化。	地域文化および芸術活動を通じ た観光活性化
地に足のついた多文化共生社会	ポップカルチャー、外国人の文化 の発表する場の創出。	
- 文化芸術が、世代を超えた出会い と対話を生む「日常の接点」にな っている - 伝統工芸の技と物語が、若い世代 の手で次の形に継承されている。 - 区民自身が「このまちの文化」を 誇りを持って語れる状態になって いる	- 体験型・共創型の参加の入口を増 やす（伝統技術展の満足度 86%を 活かす）。 - 伝統文化の継承を「体験→学び→ 担い手」の流れで再設計。 - 文化芸術について、産業・にぎわ い・区民参画と横断させる設計を 前提とする。	

・ 文化が地域全体の力になる	・ 文化・芸術活動を「単なる活動」にとどめずに、地域課題解決やまちづくり（コミュニティ形成、地域活性化、観光活性化）に寄与するような取組を展開する。 ・ 文化芸術を、人と人をつなぐ「素材」として位置づけ、施策を並べる前に、この素材がどう他分野に編み込まれるかを先に設計する。	
--	--	--

【産業】

2040 年の望ましい姿	望ましい姿を達成するための取組	基本目標に盛り込むべきキーワード
社会の変化に応じた新たな産業が生まれ、これまで地域を支えてきた産業と融合して、魅力ある地域経済が育まれ活力のあるまち	- 荒川区の強い産業（製造・小売・建設業）の振興、新産業の創出、既存産業との融和。 - 荒川ブランドの創出及び認知の向上。 - 機械化・デジタル化の推進（区による後押し）、フィジカル AI 等、荒川区のモノづくりの強みを活かせる産業の振興。 - 世界も視野に入れた販路開拓（区による後押し）。 - 産官学の連携によるスタートアップエコシステムの構築。 - 働き方改革を含めた新たな産業の創出。	- これまでの産業と新たな産業の融合 - 立地特性のポテンシャルを活かした産業振興
経営者が地域を支え続けられる地域	- 区内の事業者の維持・増加のため、業種を問わない創業支援施設の開設。 - 事業者に対する各種支援策、補助金の充実。 - 経営者交流促進の支援。	
次の世代が楽しみながら産業を引き継いでいる環境があるまち	- 伝統技術を持っている熟練の方々と、新しい発想を持っている若者をつなげていく。 - 区内の区立小・中学校における「地元産業」の体験学習の実施。	
荒川区でこそ起業したくなる環境が整っているまち	- 資金（エクイティ）供給の充実。 - 採用上の魅力向上（荒川区住職近接が魅力）。 - 取引先からのイメージ向上（与信判断にも影響。創業地としてのブランド戦略）。	
世界に繋がる企業の誘致が出来ているまち	- 研究学園都市、政治・行政の中心地、国際空港、商業地のいずれにも近い立地の優位性を活かした、世界に繋がる企業の誘致。 - 観光だけでなく、企業誘致としての荒川区の世界に向けた発信。	
立地ポテンシャルを活かした産業振興が実現しているまち	- 南千住の JR 貨物の土地の活用や、国際空港との近接性を活かした世界への輸出、高級ホテルの建設等を通じた富裕層の呼び込み。 - 都電を活用した地域産業の交流促進（都電沿線産業フェスなど、都電沿線の地元産業を核とした消費向上策・交流人口向上策）。	

• 次の世代が、荒川区の産業を「楽しそう」「関わりたい」と思える状態になっている。 • 承継と創業が一体化し、小さくても強い事業者が技術・物語・地域性で選ばれている。 • 商店街が「買い物の場」から「地域のつながりの拠点」に変わっている	• 子ども・若者が産業の現場に触れられる機会を増やす（見学・体験・インターン）。 • 承継と創業を一体で支え、「迎える人」と「始める人」が自然に出会う場をつくる。 • 小規模事業者の発信を伴走型で支え、「人の物語」として若い世代に届く形に育てる。	
--	---	--

【地域のにぎわい】

2040 年の望ましい姿	望ましい姿を達成するための取組	基本目標に盛り込むべきキーワード
- 文化・芸術、既存産業と新産業を大切にしてい地域の魅力を維持するまち - 区民の生活を中心に据え、上辺だけではない本物の魅力・地域の賑わいを創り上げる	- 史跡、公園、人文資源（松尾芭蕉ゆかりの地）、商店街、銭湯、都電などの魅力を大切にしていく。 - 区民の参加で商店街の振興や緑地増加に取り組む。 - 日暮里繊維街でのファッションイベントの再興。 - 海外への発信回遊性を高めるスタンプラリーの継続。 - リアル・バーチャルの双方での情報発信の継続。 - 下町のおせっかい（丁寧な接遇）の良さを守る。 - 商店街のイベント支援・イベント企画支援 「天王祭」の通年での魅力情報発信。	- 住民中心 - 上辺だけでない本物の魅力 - 立地特性を生かした観光施策の実施
老若男女が趣味や仕事のように楽しみながら地域に関わっているまち	- 子どもの権利条例の下、若者が当事者意識を持ってまちづくりに関わる意義の検討。 - 予算を確保した上で若者の意見を聞き、施策として実現する。 - 若者が企画し、若者が主体的に行うイベントやまちづくりへのバックアップ。	
単なる通過点ではなく、区内滞在時間が長いまち	- 旅行客に来てもらい、消費してもらい、また来たいと思ってもらえるような取組。 - 来訪客の周遊拠点施設（ホテル）の日暮里への誘致・整備を行い、区内での消費を促進する。 1 か所だけでなく、数か所を回ること満足度を高めることで周遊性を高めていく。 - 象徴的な観光地を創ることで、そこを目指して来訪してもらう。 - 回遊性を高める具体策として、「核（集客性の高い拠点エリア）」と「圏域（拠点エリアから徒歩で訪問できる複数の魅力エリア）」のネットワーク化というまちづくり戦略の展開。 - CRM（Customer Relationship Management：顧客情報管理）を行い、来訪客の属性に応じて訴求する。 - 観光サイトや鉄道事業者と連携して、来訪客の分析。 - 分析結果を踏まえたニーズに合った広報の実施。	

• 荒川区らしい日常に、人が自然に引きつけられるまち • 都電・商店街・繊維街・川・文化施設をつなぐ回遊が、日常の光景になっている • 来場者数ではなく、地域への還元と関わりの密度で、にぎわいが測られている	• 地域資源を「一つの体験」として編み直すストーリー設計を行う。 • 交通利便性の高さを「通過」ではなく「滞在」と「出会い」に変える仕掛けをつくる。 • にぎわいの成果を、滞在時間・地域消費・リピート率・関わりの数で評価する。	
• 適切な規模の持続可能な町会	• 近隣同士の町会合併が住民にとって有益であることを役所が先導して広報する。 • 町会を 3,000～5,000 世帯、5,000～10,000 人、年間予算 1,000 万円程度の規模に再編する。	

【区民参画・協働・シティプロモーション】

2040 年の望ましい姿	望ましい姿を達成するための取組	基本目標に盛り込むべきキーワード
- 行政と民間、区民が連携して課題解決に取り組んでいる - 住民自らが情報発信者となり、楽しみながら地域に関わっている	我がまちに貢献したいという住民の活動をリアル・デジタルツールを組み合わせる後押しする。	- 町会 - 土地の有効活用 - デジタルツールの活用 - ブランディング - 下町風情 - 人と人とのつながり 「共感型」の情報発信
町会を中心に地域でつながりが生まれている	- 小規模自治会同士の合併・連携。 - 退職後の男性を対象とした地域とのつながり形成（囲碁、将棋、麻雀を行うクラブ活動の実施など）。	
区内の土地が有効に活用されている	- 公園に人を呼び込むような仕掛け（花を整備、官民連携の下で民間が案内）。 - 荒川区庁舎の建て替え後の土地の有効活用。	
区民が区政を身近に感じている	- SNS などのデジタルツールの活用。 - インターネット上で区民が行政に対して提案できるシステムの導入。 - デジタルツールとリアルなツールを組み合わせた取組。	
区内区立小中学校における児童・生徒がまちづくり活動に参加している	- 荒川防災まちづくりとして、「火の用心」の参加 - コミュニティ形成のための祭礼参加および祭礼の理解を深める学習	
荒川区のブランディング	- 宣伝力の向上（繊維街、祭り、神輿を活用）。 - 映画・テレビのロケ地としての積極アピールと地元ロケ地紹介。 - 地域ごと（区内 8 地域ブロック）の文化・観光資源の発掘と情報発信（地域ごとのシビックプライドを醸成する）。 - Youtube などによる「あらかわちゃんねる（区内の情報発信番組）」の創設。 - 日常の下町風情（観光地や大都市部には無い、情緒ゆたかな区内の暮らしの風景）の発信。	

• 多様な人が、それぞれに合った入口で無理なく地域に関わっている。 • 区民の声が見える形で施策に活き、「出したら変わる」実感がある。 • 区民自身が楽しみながら地域に関わり、誇りを持って暮らしている姿が、最強の発信になっている。	• 小さく参加できる入口を複数用意する（イベント・オンライン・まち歩き等）。 • 発信を「お知らせ型」から「共感型」へ変え、人・物語・変化を伝える。 • 「住みやすい」「下町」「ふれあい」を「人と人のつながり」で統合したメッセージをつくる。	
• 区民自身が楽しみながら地域に関わり、誇りを持って暮らしている。	• 4つの課題（文化芸術・産業・にぎわい・シティプロモーション）を、別々の施策として積み上げるのではなく、「人と人とのつながり」を軸に設計する。	

【防災】

2040 年の望ましい姿	望ましい姿を達成するための取組	基本目標に盛り込むべきキーワード
・ 火災・地震・水害に強い	・ 木造密集地域を解消する。ただし、木造密集地域の文化的魅力を維持することも考慮し、耐震化・耐火化により災害に強い木造密集地域を打ち出すことも選択肢である。 ・ 不燃領域率を向上させる。 ・ 緊急車両が通行可能で、延焼を防止する広い道路を増やす。 ・ 地域コミュニティを充実させ、地域防災力を強化する。 ・ 発災後・被災後の復旧力・回復力を強化する。 ・ 毎年度、防災基盤を整備する。 ・ 発災時の災害廃棄物の受け入れ場所や処理のための重機を確保する。 ・ 応援物資の受け入れ場所と配布場所を一方通行で行う。	・ 木造密集地域 ・ 不燃領域率 ・ 地域コミュニティ・地域防災力 ・ 地域の人が地域で守る ・ 町会 ・ 地域での横断的な連携 ・ 木造密集地域 ・ 不燃領域率 ・ 地域コミュニティ・地域防災力 ・ 地域の人が地域で守る
・ 地域防災力・共助の仕組みが保たれている	・ 地域コミュニティを充実させ、お互いが顔見知りとなり、災害時にも助け合える関係にする。 ・ 町会による町内でのイベントや防災訓練、花火大会を通じてコミュニティを維持する。 ・ タワーマンションの建設によるジェントリフィケーション（まちの変化）と並行して住民が集まる理由が薄まるなかで、住民が集まることに新たな意義や目的を見出す。 ・ 区民の防災意識を向上する。	・ 町会 ・ 地域での横断的な連携
・ 区内のコミュニティに関わりがない人も助けられる	・ 区民以外の区内滞在者にも、一時滞在施設の場所など発災時に必要な情報について、適切に提供する。	
・ 人の距離の近さと、地域に根ざした情報のつながりが、荒川区の防災力になっている	・ 町会・商店街・学校・福祉・行政の連携を、地区ごとに見える形で整理する ・ 地域ラジオを核に、区民が日常的に地域情報を受け取れる仕組みをつくる ・ 防災情報だけでなく、教育、防犯、環境、地域活動も横断して発信する ・ 情報と関係性の両方が循環することで、災害時に強い地域を育てる	

【防犯・区民生活の安全】

2040 年の望ましい姿	望ましい姿を達成するための取組	基本目標に盛り込むべきキーワード
地域コミュニティが充実している	- 高齢化や人材不足で機能しなくなった町会を、一定規模（1,500-2,000 世帯）以上にまとめていく。 - マンションも含めて、向こう三軒両隣を復活させる。 - マンション借入住民の動向を把握する。 - 住民登録していない人にも対応する。 - 荒川のルールを作り外国人に指導する。	- 地域コミュニティ・町会の充実 - マンション住民への対応 - 自転車の安全な利用 - 孤立・情報弱者
若年層の犯罪被害・加害がない	高齢者には音声や地域のつながりで、若者には SNS や動画で届くよう、伝え方を世代ごとに変える。	
誰もが安心して自転車で移動できる	- 街中の死角を減らし、キックボードなど新たなモビリティも考慮したまちづくりを進める。 - 自転車専用通行帯の整備など道路環境の改善を進める。	
孤立や情報弱者を生まない地域が形成されている	- 国の対応も見ながら、区として対応できる部分に取り組んでいく。 「知らなかった」「判断できなかった」を減らすため、情報弱者を生まない発信体制を整える。	
人の距離の近さと、地域に根ざした情報のつながりが、荒川区の防犯力・生活安全力になっている	- 特殊詐欺、SNS 型犯罪、消費者トラブル、自転車事故などを、具体例ベースで伝える啓発を強化する。 - 地域ラジオを、防犯・消費生活・交通安全の共通の情報基盤として育てる - 町会・商店街・学校・福祉・警察・行政が連携した地域見守りネットワークを強化する。 - 警察と消防の協働を続ける。 - 防犯カメラを充実させる。	
犯罪の変化にも対応できている	サイバー犯罪にも対応する。	

【住環境】

2040 年の望ましい姿	望ましい姿を達成するための取組	基本目標に盛り込むべきキーワード
マンションの老朽化対策が進んでいる	- 管理組合や管理会社が長期的な計画のもとで維持保全を担う。 - タワーマンションの投機目的での購入により困難化するマンション維持管理における合意形成を支援する。	- 区民の高齢化とマンションの老朽化という二つの古い - コミュニティの希薄化 - 遊び場の減少 - あらゆる世代が集える場 - 景観
高齢者やその家族が安心して住み続けられる住まいが確保されているまち	- 独居高齢者が増える中で、そうした方々が地域コミュニティと積極的に関わりを持てるよう、コーポラティブハウス等の仕組みをまちづくりの中で積極的に取り入れる。 - 家賃高騰下でも子どもや孫が住み続けられるように支援する。 - 障がいを持つ方でも住みやすい住宅を確保できるように支援する。 - アフォーダブル住宅のような、住宅を確保できない人への支援策を実施する。	
老朽マンションの安全対策が進んでいるまち	分譲と賃貸で課題が異なるため、それぞれに応じた施策を検討する。特に賃貸住宅では、住民が根付いていないため、一層の工夫をする。	
地域全体でコミュニティが形成されている	- 特に既存住民と新住民との関係が希薄になりがちな新しい開発地域で、両者の間のコミュニティの育み方を考える。 - マンション内コミュニティと町会・地域コミュニティの接点を増やす。 - 町会加入の阻害要因への規制。 - 町会風情を活かした景観を整備する。	
自然災害に対する避難方策が根付いている	垂直避難と在宅避難など新たな避難方法を住民に定着させるための啓発活動を行う。	
子どもの遊び場が適材適所に確保されている	都市公園だけでなく、法の縛りを超えてフレキシブルに子どもたちが使える公園を整備する。	
多様な世代の居場所が適材適所で確保されている	- 公園の整備や、図書館の整備、コミュニティ施設の計画的な配置・整備を行う。 - ゆいの森のような、子どもからお年寄りまでが集える場所を増やしていく。 - 男性が退職後も地域とのかかわりを持てるような仕組みや支援策を検討する。 - 住みやすさを、住宅性能だけでなく、孤立しない暮らしのしやすさで考える。	

荒川区らしさが適材適所で演出され、地域住民の荒川への誇りと愛着が醸成されている	地域特性や下町風情を生かした景観整備を実施する。具体的には、地域住民と行政が連携し、地域の特性や下町づくりを生かした荒川区らしさを啓発する景観まちづくりを実施する。例えば、防災に配慮した景観に着目した防災景観かるたの作成や、まち歩きマップに防災情報を盛り込むなど。	
ごみ捨てや町会費の支払いが適切に行われている	区で一定の規制を設ける。	
人のつながりが住みやすさにつながり、荒川区らしい、支え合いのある住環境ができている	- 福祉、子育て、見守り、住環境の課題を横断して考える体制をつくる。 - 地域ラジオなどで、地域の居場所や活動情報が区民に届く状態をつくる。	

【都市基盤】

2040 年の望ましい姿	望ましい姿を達成するための取組	基本目標に盛り込むべきキーワード
円滑な避難が可能であり、安全・安心かつ快適な道路環境が整備されている	道路基盤について、健康面への影響や文化的な価値を重視し、基盤整備の基準を柔軟に変えるなど、メリハリをつけた整備を行う。	- 災害リスクへの対応 - 道路の老朽化対策 - 移動空間の安全・安心及び快適性 - 持続可能な地域公共交通 - 快適な居住空間 - にぎわい空間の形成 - ユニバーサルデザイン - インクルーシブ
交通利便性が低い人がそれなりに移動できるまち	- 居住者のニーズに応じた公共交通政策を展開する。 - 高齢者や高密度居住地区においても地域公共交通が十分に整備されている。	
快適な居住空間とにぎわい空間が適材適所で形成されている		
円滑かつ利便性の高い交通環境や駐輪場が整備されている	自動運転の実用化も視野に入れ、対象を絞った対策や新たなモビリティサービスの導入など、柔軟な対応をする。	
災害リスクの高い地域や水害地域において、安全・安心な整備とソフト対策が講じられている	建物ストックの長寿命化を推進する。	
低利用地が有効に活用され、高齢者から若者世代までの居場所となるような空間が創出されている		
再開発地域において良好な住環境と新たなにぎわいが形成されている	- 再開発の中に、住居だけでなく働く場所もつくる。 - 空港や霞が関へのアクセスの良さを生かし、大企業本社を誘致する。	
荒川区らしさが適材適所で発揮され、地域住民の愛着が醸成される		

子どもも高齢者も、障がいのある方も、誰もが安全に移動でき、人と人が自然につながる都市基盤が整った荒川区になっている	- 歩行者・自転車・車・新しいモビリティが共存できる、安全でわかりやすい道路空間を整える 駅、生活道路、商店街、公共施設をつなぐバリアフリー動線を強化する - 地域ラジオを活用し、道路、交通、再開発、まちの変化を区民がわかりやすく知れるようにする - 都市基盤を、便利さだけでなく、人が安心して関われるまちの器として育てる	
---	--	--

【環境・みどり】

2040 年の望ましい姿	望ましい姿を達成するための取組	基本目標に盛り込むべきキーワード
区民や企業が無理なく取り組める形で、カーボンニュートラルの意識と行動が定着している	分かりにくいテーマについては、「人の暮らしやすさ」という観点から伝えていく	- カーボンニュートラル - サーキュラーエコノミー - ネイチャーポジティブ - ウェルビーイング
ごみの量が減少し、ポイ捨てや不法投棄がない	- 区自然を大切にするマインドを引き続き育てていく - 人工地盤による公園整備や壁面緑化など、様々な工夫によって緑地を確保する。	
人と自然、人と地域のつながりが深まり、荒川区らしい、やさしく心地よい環境が育っている	- 公園、広場、街路空間を、使いたくなる・立ち寄りたくなる場として整える - 花壇づくり、清掃、美化活動などに、子どもから高齢者まで関われる仕組みを増やす - 地域ラジオで、環境に関する身近な実践や工夫を共有する - 環境を「我慢」ではなく、暮らしをよくする行動として広げる - みどりを、孤立を防ぎ、暮らしの余白をつくる場として位置づける	
リチウムイオン電池による事故を防止できている	- リチウムイオン電池が原因となる火災について、国のルールの変化も見ながら、区民や行政、民間企業も対応していく。 - リチウムイオン電池の回収システムを構築する。	

【行政運営・DX】

2040 年の望ましい姿	望ましい姿を達成するための取組	基本目標に盛り込むべきキーワード
質の高い職員が確保され、一人ひとりの職員のパフォーマンスが最大化されている	- 人材マネジメントを徹底する。 - 意欲ある女性職員の活躍を支援する。 - 職員が一定の余裕とやりがいを持って取り組めるように環境を整備する。 「人を大切にする」という視点を今後の区政運営に盛り込む。	- QOL - 人を大切にする - プッシュ型の情報・サービス提供 - 住民の理解・協力 - 働きやすい環境づくり、やりがい
区民が行政の必要性を理解し協力している	- プッシュ型で情報やサービスを提供するなどの工夫をする。 - 工数の削減による負担軽減が、区民サービスの向上や区民の QOL 向上といった形で区民に還元されることを示す。 - 予算に対する区民への還元を定量的に把握し、成果を区民に見えるようにする。 - 行政が直面している苦労や課題を民間にも理解してもらうために、行政内の横断的な連携・情報共有を強化する。	
持続的な財政運営がなされている	財政の健全化、健全な財政運営の視点を進める。	
質の高い区民サービスが提供されている	DX に際して、人員削減を進めるのではなく、職員の職務環境を改善し、働きやすい環境づくりと区民対応力の強化を両立する。	
人のつながりを支える仕組みとして、行政運営と DX が機能し、荒川区らしい、顔の見える行政が実現している	- 民間、地域団体、若い担い手とも連携し、行政だけで抱え込まない仕組みをつくる。 - 地域ラジオを核に、防災、教育、福祉、環境などを横断して区民に情報を届ける。 - 若い世代も参加しやすい意見交換や情報共有の場を増やす。 - 若い担い手や地域プレイヤーが、情報整理や発信、橋渡し役として関われる余地をつくる。 - 各部門の課題を横断して把握し、区全体としてつながった行政運営を進め、区民に知ってもらう。	

第 2 小委員会のまとめ

第 1 回：令和 8 年 3 月 1 9 日(木)

第 2 回：令和 8 年 4 月 1 0 日(金)

【子育て】

2040 年の望ましい姿	望ましい姿を達成するための取組	基本目標に盛り込むべきキーワード
- 子どもには幸せの芽が育つ社会、こころ弾む子育て、共働で感動できる社会 - 子どもたちが興味関心を持ち、「考動」(考えて動く)できるような「元気の芽が育つ」環境 - 子どもたちが興味関心から夢中になって「行動」できるような「勇気の芽が育つ」環境 - 最終的に「幸動」(幸せが動く)につながる環境	- 親子で運動をする。 - 継続的なイベントの開催。 - 感覚的で豊かな知識を獲得するため、伝統芸能との接触機会を設ける。 - 育児不安の解消(子育て経験者による、ふれあい館を活用した料理教室/等)。 - 子育てきっかけ講座の実施(子育て経験者に、肩の力を抜けるようなほっとする一言をかけてもらえる場づくり/等)。 - ふれあい館の活用方法の見直し(開館時間と閉館時間の見直し/等)。 「障がい者」「健常者」というカテゴリにとらわれず、一人ひとりに必要な後押しやサポートの在り方を理解し、地域の輪を強化する。	- 子育てにやさしい街づくり - ライフステージを通じた支援体制 - 子どもの権利 - ハウジングファースト - プレイパーク - こどもまんなか - 第三の居場所
子どもの権利を最大限尊重する	困難を抱えた子どもへの伴走型支援	
- 街中に多くの子どもの居場所がある - 子どもにやさしいまち	- 子育てしやすい住環境の整備 - 子どもたちが安心して遊びに没頭できる施設の整備(常設のプレイパーク、清潔感のある公園/等)	
働きながら子育てできるまち	子育て世帯への就労支援。	
データと現場の声をリアルタイムで把握し、分析できるまち	- 児童福祉に関わる専門家(子ども家庭センター職員、保健所側隠、スクールソーシャルワーカー/等)の待遇の改善(賃金や雇用形態の見直し/等)。 - データと事情の折り合いをつけた施策の検討。	
柔軟で機動力のある制度設計	- 多様な人材による地域包括支援体制の構築。 - 縦の行政、横の民間、斜めの市民という三者を多層的に捉えた、多重支援の提供。	

・ 子育てしたいと思えるまち	・ 自分自身の困りごとに応じて相談場所が見えるような広報	
・ 住むことで自分自身も明るくなれる、子どもも親も笑顔なまち	・ 親の心に寄り添う取組（PTA への参画による、ママ友・パパ友の形成、支援にアクセスするための情報の周知 / 等）の充実。 ・ 講座等にて、「荒川区に住むと自分自身も明るくなれる」というメッセージを入れる。	
・ 子どもを支える人が、荒川区全体に支えてもらっている実感を持てるまち	・	

【教育】

2040 年の望ましい姿	望ましい姿を達成するための取組	基本目標に盛り込むべきキーワード
一人ひとりの個性や多様性を認め、個人に寄り添った教育をする	- 教職員を十分数確保し、学校現場を持続可能にする。 - 課題の優先順位を検討し、メリハリをつけて施策を行う。 - 希望者全員が個別に学ぶことができる通級制度の拡大。 - マルトリートメント（不適切な教育）の防止。 - 援助職（福祉専門の管理職／等）の充実。	- 多様性 - 個性や多様性を認める - 個人に寄り添った教育 - インクルーシブ - ありがとう - 学びの多様化学校 - 当事者性を育む - 主役
- ありがとうという言葉が飛び交うまち - ありがとうで心を温め合うまち	- 区内の取組（こころの健康観察アプリ「ニコニコチェック」／等）や好事例（第一中学校におけるインフルエンザの早期対策、受験生を安心させる工夫を凝らしたアンケートの実施と保護者への結果共有／等）を周知・広報する。 - 区や学校職員等に感謝を伝えるイベント等の実施。 - ありがとうイベント（電子掲示板や区報ジュニア版を読む）	
教職員が働きたいまち	- DCS モデルの枠組みに沿って、教職員の要求水準を下げ、自由度を高め、サポートを高めるような取組を実施する（教職員が相談できる夜間窓口の設置、担任を複数人で分担する、授業数の削減／等）。 - 学校運営協議会制度に基づく実効性のある取組による、学校現場の負担軽減。 - 学校運営協議会という公的なつながりによる、学校をゆるやかに応援する関わりが持てる体制の構築。	
普通教室で多様な学びが叶う	- 通常の学級で行えることを増やし、一次的援助サービス（安全安心な教室）を叶える。 - 中央区の特認校制度を参考とした取組。	
人権を土台とした多様な学び	- 知識を組み合わせる行動に繋げ、子どもたちが勉強の面白さを体験できる教育（STEAM 教育、アントレプレナー教育／等）を提供する。 - 特色のあるカリキュラムマネジメント（渋谷区の午後探求「シブヤ未来科」のような取組／等）。 - 教職員が本来の職務に専念できる環境づくり。 - 校則の意義を生徒主体で考え、対話の機会を設ける。	

• 誰もが主役になれるまち	• どんな人でも主役になれる、一緒に学んでいくための施策の検討。	
• いじめに厳しいまち	• 校長の影響力を生かしたいじめの予防。	
• 誰も取り残さない教育	• 公立学校以外も含めた全ての子どもたちと子育て世帯を支援する施策の実施。 • 成育条件によらず、すべての子どもが十分な教育を受けられるような施策の検討。	

【若者】

2040 年の望ましい姿	望ましい姿を達成するための取組	基本目標に盛り込むべきキーワード
課題に寄り添うまち	- 若者相談「わっか」の充実。 - 引きこもりの若者にとって比較的抵抗感の少ないチャンネル（オンライン、VR / 等）にて支援を提供する。 - 多様な就労を支える仕組みづくり。	- 移行期支援 - ユースセンター - 社会的孤立 - 多世代 - 地域への愛着
若者の声が形になるまち	- 子どもの権利条例の下、若者が当事者意識を持ってまちづくりに関わる意義を検討する。 - 予算を確保した上で若者の意見を聞き、施策として実現する。 - 若者が企画し、若者が主体的に行うイベントやまちづくりへのバックアップ。	
様々な経験・体験ができるまち	様々な施設における、スポーツや文化・芸術、学習、地域ボランティア等を体験できるネットワークの構築。	
日々の楽しみが見つけれられるまち	大規模な公園、公共施設等の整備を一体的に捉え、その場でできる体験を整理し、バランスよく配置する等のハード面での環境整備。	
社会的孤立を生まない、豊かな繋がりを実感できるまち	- 各世代の若者向けの常設の居場所（サードプレイス、ユースセンター、図書館 / 等）の確保 18～30 歳程度の若者が利用できるシェルター機能のある施設の整備（若者版の子ども家庭総合センター / 等）。 - 移行期の引継ぎの拡充（移行期に特化した部門の設置 / 等）。 - 若者向けの商業施設（映画館、ゲームセンター / 等）の設置。	
下町起業の聖地あらかわ	荒川区ならではの人のつながりを生かした小規模な起業の支援・促進（古民家運営 / 等）。	
- 人生の始まり期を応援するまち - チャンスにあふれたまち	- 人生の始まり期を 25 歳程度と捉え、若者が事業を提案できるような仕組みをつくる（若者にも積極的に参加してもらえるような「事業提案制度」の設置 / 等）。 10～20 代の若者の基本構想審議会への参加。	
若者が地域活動に参加するまち	若者に参加してもらうことによる新たな視点の獲得を目的とした、青少年地区委員会や青少年委員会等の体制の見直し。	

	・ 将来的な町会活動へのゲートウェイ機能となることを見据えた、イベント等における中高生ボランティア参加促進（謝金の支払い／等）。	
・ 世代を超えた共創のまち	・ 若者の意見を受け止め、反映する体制の構築。 ・ 世代を超えて議論する「多世代会議」の実施。	
・ 若者の思いが実現する、大人の懐の深さがあるまち ・ 地域が若者を育て、若者が地域を育てる	・ 大人が誘導するのではなく、若者の生の声を聞き、希望を実現する仕組みづくり（予算を確保した上での「子ども会議」の実施／等）。	

【生涯学習・スポーツ】

2040 年の望ましい姿	望ましい姿を達成するための取組	基本目標に盛り込むべきキーワード
誰もが何歳になっても学び直せる、サポートを受けられるまち	- 高齢者だけでなく、就労世代等の時間的制約のある層でも学び直しができるような環境づくり。 - 学び直しやスポーツの取組の広報（イベント等の情報提供、学び直しを希望する人が足を運ぶことで情報が得られる場づくり／等）。 - 図書館の多様な活用方法の検討（子どもの居場所、学習支援、ビジネス支援／等）。 - キャリアチェンジに生かせる学習機会の提供。	- 冗長性 - レジリエンス
人とつながることで、自然と心も身体も整うまち	- 人と関わる中で自然とスポーツや学習をしているような環境づくり（地域イベントにおける動ける場づくり、子どもの運動に親を巻き込むようなきっかけづくり／等）。 - 知識はAI から得られることを前提とし、人と人との対話の中で心を育てるような学習機会を提供する（気軽に対面相談ができるような部課の設置、スポーツ経験者のチームサポーターとしての参加促進、特定分野の知識がある区民と区民の相談をマッチングするシステムの構築／等）。 - 学習と運動が相互に好影響を与えられるような場づくり（図書館とグラウンドの一体化／等）。	
生涯学習・スポーツをしたくなるまち	- 参加促進やまちのにぎわい創出を見据えた、区民の生活導線上での生涯学習・スポーツの取組の推進（屋外、ショッピングモール、商店街、駅／等）。 - AI による個人に合わせた生涯学習プログラムのレコメンド提供。 - 対話やワークショップがしやすい環境設計。 - 歩かせる仕掛けづくり（歩数に応じて特典が得られる／等）。	
五感で読書を楽しめるまち	- 視覚以外で本を楽しめる取組の実施（図書館におけるオーディオブックの拡充、絵本の中の食べ物を給食に出す「読書給食」／等）。 - 家読のような、親子で共に読書を楽しめる取組に、味覚や聴覚を伴う工夫を凝らす。	

多様な場所で多様な体験ができるまち	- 多様な区民のニーズに応じた柔軟な場づくり（図書館に訪れた子どもへのおやつ提供／等）。 - 施設ごとに用途を区切らず、既存の施設を生かして各施設で多様な体験を可能にする。 - 多様な学習機会の提供（夜間中学／等）。	
地域ならではのスポーツが体験できる	- プロギング（ジョギングしながらゴミ拾いをする）など、荒川区の環境に合ったユニバーサルスポーツの推進。 - ゴミ箱の充実によるプロギングしやすい環境づくり	

【健康】

2040 年の望ましい姿	望ましい姿を達成するための取組	基本目標に盛り込むべきキーワード
・ 住んでいるとおのずと健康になる。 ・ 気が付くと健康になる。	・ ナッジを生かした取り組み（おすすめメニューが健康的であるなど）。 ・ 健康に関する正しい知識が自然と得られるような環境づくり。	・ おせっかい ・ ケアしあう ・ 関心を向けあう ・ 元気なまま生涯を終えられる ・ 地域に開かれた医療 ・ 社会的処方 ・ おのずと健康になる ・ 誰もが健康になれるまち ・ つながり
・ おせっかい（ケア）がある。	・ 他人に関心を向けるようになる。 ・ 多くの人と関わりあう（あいさつなど）	
・ 骨格・脳・臓器が健康である。	・ 子ども時代に栄養を与えて、筋骨格を育てる。 ・ 動く（遊ぶ）環境がある（体力向上、生活習慣病予防の観点）。	
・ 区民同士のつながりがある。	・ コミュニティナース（人が自然にあつまる場所で正しい知識が得られる、若い子が健康に関する知識を得る）ができる場所づくり。 ・ 暮らしの保健室（近所の人として、医療者に関われる） ・ オンライン、DX を生かしたつながりづくり ・ より多くの区民がつながりを持てる取り組み	
・ 運動、コミュニティ、食を上手に生かす。	・ 既存の取組を整理し、継続すべきものを続ける。 ・ 骨格・四肢を鍛え、神経系の発達を促進させるための運動（36 の運動、ラジオ体操 / 等）。	

【高齢・介護】

2040 年の望ましい姿	望ましい姿を達成するための取組	基本目標に盛り込むべきキーワード
長寿社会の進展をポジティブに受け入れられる社会	- 生涯現役で働きたい人への支援（柔軟な就労制度、シニアの技能・経験マッチング制度、企業へのシニア雇用インセンティブ／等） - 健康増進・介護予防（ウォーキング・運動拠点整備、フレイル予防プログラム、地域スポーツ・健康教室、食事・栄養支援の充実／等） - 長寿を楽しめる文化社会の醸成（生涯学習、文化芸術活動、旅行・観光支援、趣味コミュニティ／等）	- 長寿価値社会 - 共生型地域社会 - 地域完結ケア - 生涯現役社会 - ケア共創社会 - みんなでつくる長寿のまち - 年をかさねるほど豊かになるまち - 安心して歳を重ねられるまち - 人と人がつながるやさしいまち - いきがい - つながり - 尊厳ある暮らし - 支え合いの仕組み化 - 持続可能な介護社会 - 若いうちから介護に触れる - コミュニティケアラーの育成 - ずっと住み続けたいまち - 支え合いで育むまち - あんしん
- 住み慣れた自宅や地域で、人とつながりながら最期まで暮らせる社会 - 積極的に高齢者が社会参画できる荒川区	- バリアフリー改修の支援や高齢者賃貸入居支援など、住める家の確保。 - 在宅医療・介護の強化（24 時間対応の在宅医療、在宅看取りを支える医療連携拠点の整備／等） - 高齢者向けの施設等の整備。 - 孤立・孤独死を防ぐ地域コミュニティづくり（地域サロン、地域活動、世代間交流拠点／等）。 - 移動・買い物・生活支援（移動支援、移動スーパー、生活支援サービス、オンライン診療、行政手続きのデジタル化／等）。 - 社会参画のきっかけづくり（取組の周知、声掛け／等）	
認知症になっても、その人らしく感情豊かに笑顔でいられる社会	- 認知症の当事者が見守られる対象ではなく、地域の一員として暮らせるまちづくり（認知症フレンドリータウンの推進、認知症サポーターの拡充・ステップアップ、当事者参加型の地域活動／等）。 - 早期支援により進行を抑える（認知症検診の拡充、認知症初期集中支援チームの強化／等）。 - 本人の意思を尊重した生活設計（意思決定支援、成年後見制度の利用支援、財産管理・契約支援の充実／等）。	
高齢者を支える人を、社会で支える。真心だけに頼らない、無理ではなく仕組みで支える	- 介護サービス、訪問看護の充実、家族介護者への支援 - 介護人材の処遇改善やテクノロジーの活用 - 地域包括ケアシステムの強化、見守りネットワークの強化等	

・ 認知症になった方も家族も安心して暮らせる荒川区 ・ 介護・福祉人材が働きやすい荒川区	・ 介護サービス、訪問看護の充実、家族介護者への支援。 ・ 人材の確保・育成（介護人材の処遇改善、介護事業者と若者が一体となったコミュニティカフェの運営等／等） ・ 介護人材のやりがい依存の脱却（テクノロジーの活用／等）。 ・ 地域共助の仕組み化（地域包括ケアシステムの強化、見守りネットワーク、事業者と連係した生活見積み、地域ポイント・電子地域通貨による支え合い活動促進／等）。	
・ 互恵性のある	・ 互いに社会貢献をし合う仕組みづくり（多世代交流型アパートメント／等）。 ・ 保育・教育の中での、子どもと高齢者の交流機会の導入。 ・ ドイツの「多世代の家」のような多世代交流の場づくり。 ・ 世界のエイジフレンドリーシティとの連帯。	
・ 心の余裕がある	・ 小さい子と、高齢者（特養の方など）の交流の場づくり	
・ 国際連携	・ 多世代の家（ドイツ）のような、あらかわプロジェクト ・ 世界のエイジフレンドリーシティとの連帯	

【障がい・生活支援】

2040 年の望ましい姿	望ましい姿を達成するための取組	基本目標に盛り込むべきキーワード
• 全ての人が生きがいを持ち、社会参加できるまち	• 仕事や住まいを安定させる取組。 • 福祉就労と一般就労両者の意見を聞く計画相談支援事業所の人員不足対策。 • 空き家等を活用したアフォーダブルハウスの増設。 • 通所をサポートするヘルパーの確保・育成。 • 障がい者への理解促進（デイサービス等の施設に多様な区民が出入りできるような仕組みづくり、小学校における障がい者理解啓発、健常児と障がい児が同じ目線で共に理解を深める機会の創出／等）。 • 障がい者本人の意思を尊重した支援の拡充。 • 民生委員の情報を公開・周知する。 • 若者へ情報を届けるための若者版民生委員の仕組みづくり。 • 介護事業に関する制度等を周知する際のデザインの工夫（AI 技術等を活用したビジュアルライズ／等）	• 孤立しない • 周辺の人と関わる • 心のバリアフリー • 依存の価値観を変えていく • ユニバーサル
• 障がいの有無にかかわらず共に生きていけるまち	• 「障がい者をサポートする」のではなく、「障がい者が生活するのにふさわしい環境ができておらず、健常者へのケアに偏っているため、障がい者へのケアに重点を置く」という発想に転換した上で、障がい者へのケアを充実させる。 • 障がい者に合わせた基準づくり。	
• 障がいのある方にも優しいバリアフリーなまちづくり	• 世の中が「障がいがあるのは人ではなく社会の方だ」という考え方にシフトしていることを踏まえた施策の検討。 • 「障がいをもつ」ではなく、「障がいがある」と捉える。 • できない範囲のことは互いに依存しあいつつ、自分でできることを増やすための支援を充実させる。 • 相談を受けた後の、個別の伴走支援体制の整備。 • 相談員の働きやすい環境づくり。 • （早期に福祉から歩み寄ること（発達障害の5歳児健診／等）	
• 誰もが尊重されるまち	• 基本構想に基づいた施策の実行。	

【人権・平和・多様性・つながり】

2040 年の望ましい姿	望ましい姿を達成するための取組	基本目標に盛り込むべきキーワード
• 社会の全体最適に向け、自分らしさを発揮できるまち	• 今あるつながりをさらに深めることと、それに資する教育。 • 自分らしさを自分中心に捉えるのではなく、社会全体の最適化という視点を持ち、子どもたち一人ひとりが自分のできることを考え、大人がそれを支援する。 • 子どもの権利条例に係る取組の推進。	• 自分らしさ • 人と理解をしあう、知り合う
• つながりの広がるまち	• 町会に関する情報発信の強化（場所、入会方法、活動内容 / 等） • 既存の町会への参加促進と、新しい町会の認定。 • つながり創出の機会の後押し（荒川区版の地域起こし協力隊の設立、中心人物への謝金支払い / 等） • 若者の施設利用の促進（アプリでの予約を可能にする / 等）	
• 多様な文化に触れあえるまち	• 多文化共生の場となっている夜間中学等の取組の継続 • 多文化共生のまちづくりに向けた宣言の発出。 • 多文化に触れられるイベント等の実施（日暮里繊維街における衣をテーマとしたイベント / 等） • それぞれの国の文化を体験できる・ふれあえるまちづくり	
• 伝統とダイバーシティをみんなで考えるまち	• 知らぬうちに持っているアンコンシャスバイアス（無意識の思い込み）を認知し、見つめ直す機会づくり。 • 多様な人が参加できる、クリティカルシンキング（正解のない問いに対する納得解を探す）の機会づくり。 • 礼を持ったコミュニケーションによる伝統文化の変革。 • 人権問題解消に向けた相互理解の促進。	
• 守られ、保障されるまち	• 人権が侵害されたことを伝えられる場づくり。 • 属性に寄らず、全ての被害者を十分にケアする体制の整備（DV 被害に遭った男性の相談窓口、自殺対策 / 等）。 • 犯罪件数の増加を踏まえた加害者の更生・教育。	

【行政運営・DX】

2040 年の望ましい姿	望ましい姿を達成するための取組	基本目標に盛り込むべきキーワード
区を目指す姿と現状がわかりやすく示されている状態	- 適切な目標管理（PDCA 評価制度の導入 / 等）。 - 成果指標設定時の研究者等への意見聴取。 - 民間と連携して区民に行政のあり方を伝える。	- 住民満足度の向上 - 住民体験価値の向上 - 居住体験価値の向上 - AI のまち、あらかわ - 相互支援
健全な財政状況が保たれている状態	- 費用対効果を考慮した DX サービスの導入。 - 外部サービスの価格高騰を踏まえた専門性を有する職員の雇用。	
区民視点で行政サービスが向上している状態	- DX による業務効率化。 - デザイナーとの連携による、周知広報の工夫。	
行政運営に関わりたい人が、関われる行政	- 子ども、若者が行政運営に関われる仕組みづくり。 - 多様な人の議論の場づくりと、その運営を担う部門の設立。	
全ての職員がやりがいを持って働いている状態	- DX による業務効率化。 - 窓口やシステムについての理解の促し、区民から感謝の声が届くような仕組みをつくる。 - 働き方の選択の自由を確保する（業務量の増減を調節できるような労働環境の整備 / 等）。 - 近い距離感で区民と関われる仕組みづくり（窓口における丸テーブルの設置 / 等）。	
職員が常に業務の見直しや区民サービスの向上に努めている状態	職員の意識改革。	
未来ある AI のまち荒川	- 区の情報発信の一括化（予防接種のリマインド通知や、災害発生時等に個人に合わせた情報を発信するアプリの構築 / 等）。 - 申請が 24 時間できるシステムづくり	
職員・区民が互いに感謝し合えるまち	行政がサービスを一方的に提供するのではなく、区民がサービス・区の職員を応援し、相互に貢献する仕組みづくり。	